

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

北海道大学 文学部

前期日程

科目	地理
----	----

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	150点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉立体図・地形図の読図と小地形、アフリカ地誌、災害と環境変化、東アジアの諸問題という大問4題構成であり、従来の北大の傾向を踏襲している。統計問題(8問→5問)、文章選択問題(9問→6問)と減少したが、空欄補充の解答箇所数(4問→14問)、立体図と地形図の読図が増加したため、全体では難易度、分量とも昨年並みである。

〈特記事項・トピックス〉

論述問題の数が、9問(2008年度)から8問(2009年度)と減少し、総行数も25行から22行と減少したが、小問数が増加したため、昨年並のボリューム感があった。選択式・記述式問題が多いが、論述問題の内容は多岐にわたると考えると、時間配分の工夫が必要である。昨年復活した地形図が今年も出題された。昨年出題されなかった地誌が復活した。

〈合格への学習対策〉

出題分野、出題方式ともにほぼ一定の傾向が存在する。自然環境(特に地形・気候)、第一次産業(自然環境との関係を重視)、第二次産業(立地要因を重視)、環境問題、都市、貿易、そして地形図読図を中心とする地理情報への対応などを中心に、基礎的な内容の反復学習が効果的である。地名や都市名が出題される傾向が高く、地図帳での確認を怠らないことが必要である。また、40~100字程度の小論述問題は必出であり、こうした問題への対応能力を養うことも重要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述・選択	立体図・地形図の読図と小地形	主に北海道の地形図を題材として、山岳地帯の立体図と地形図の判別、土地利用、集落立地について幅広く出題された。小地形では山地地形の出題がみられた。	標準
II	記述・選択	アフリカ地誌	地名、砂漠化、農業、貿易、地下資源、社会の現状などについて幅広く問われた。アフリカ全体の地名の出題が多く、都市の位置を知っていることが要求された。	標準
III	記述・選択	災害と環境変化	津波、高波、地震、洪水、気候変動などについて幅広く出題された。やませの特徴と被害についての論述が出題された。	やや易
IV	記述・選択	東アジアの諸問題	東アジアの自然条件と大まかな歴史的流れを背景に経済、文化、民族に至るまで幅広く出題されている。ここでも主要な都市名や地理的位置が問われた。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。